

<奨励賞 5団体>

- 特定非営利活動法人 いこま山の子会 (奈良) / 20万円
「自分大好き」を育てよう～ありのままOK」

<p>団体概要</p>	<p>元幼稚園教諭であった母親が2008年に、地域の親と共に園舎のないようちえん（森のようちえん）を開設し、2013年に法人格を取得した団体である。開設当初は未就園児の親子対象の活動だったが、2010年より預かり保育を開始し、2015年度は卒園児を中心とした小学生対象のプログラムも実施予定である。</p> <p>「自由保育」「自然保育」を活動の柱として、有資格者による生駒山の雑木林の中での保育が活動の中心である。その他に、未就園児の親子クラブ、地元の市民活動団体と協働した環境整備活動などにも取り組んでいる。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、通年で週に4日、3～5歳児を預かる、大自然の中での保育事業である。本物の‘生きる力’を身につけるためカリキュラムは設定せず、自然の中で五感を使って自由に遊ばせる。夏は沢で水遊びしたり沢ガニを探したり、雨の日はタープを張りカップや長靴で雨を楽しみ、冬は寒さを感じながら雪やつららで遊ぶ。入園式、卒園式、運動会などの行事も全て山の中で行い、「自由な精神を持つ子どもを育てる」という保育理念を体現している。</p> <p>自然観察専門家やアウトドア活動専門家を招いたり、市内外の市民活動団体と協働しての里山保全や棚田保全作業などによって、自然保育の内容に深みと広がりをもたせた事業となっている。</p>
<p>講評</p>	<p>幼児期の子ども達に対して、独自の世界観で思いきり遊び、人として成長し、さらに、自然に触れることで得られる五感の発達や自然を慈しみ守る気持ちを育む保育を行う本事業については、社会性・実現性を評価した。また、自治体、地域住民、地元の教育関係者、市民活動団体、生協などと、幅広い協力関係を築いていることから、高い共感と市民参加があると言える。</p> <p>2015年度から新たに小学生向けプログラムの実施も予定していることから、本アワードからの助成をすることによって、地域での存在感を高めてもらい、次年度以降はさらなるプログラムの充実と深化を期待したい。</p>

■ 特定非営利活動法人 北播磨生活応援団 (兵庫) / 2.0万円
 「人と自然 共存・共生の森づくり」

<p>団体概要</p>	<p>2003年に北はりま地域づくり応援団として設立し、2004年より森での自然観察会・体験キャンプなど幼児・児童その保護者を対象にした自然体験活動、樹木の剪定作業などの生活環境支援活動、間伐などの森林保全活動に取り組んできた。10年が経過し、高齢者や一人暮らしが増え、好ましい生活環境維持が困難になっており、障がい者にも安らげる居場所が少ないという課題を実感し、共に生きる社会づくりと地域コミュニティづくりのために法人格を取得した団体である。</p> <p>親子向けの森の体験活動と農業体験、障がい者への憩いの場の提供で、人と自然の調和と誰もが地域社会の生活者として主体的に生き、社会の支え手となる事ができるユニバーサル社会の構築と、持続可能な共存・共生の森づくりを提案している。</p>
<p>事業概要</p>	<p>近年、自然体験学習活動に参加する子ども達の中に、発達障がい児などの症状の子ども達が増加していることを感じ、障がい児と保護者を対象とした憩いの場・癒しの場を提供してきた。それを一歩進めて、本事業では、森をフィールドにした障がい者の就業継続支援事業を2015年度より開始するものである。</p> <p>具体的には、森の腐木・葉類を腐葉土に、倒木・間伐材を木炭加工後できる灰など森の資源として、隣接している休耕田を借り受けて、障がい者の就労支援作業所を実施する。あわせて、森の活動に参加する親子と野菜収穫などの協働体験も行うことで、障がい者が地域社会の支え手となる事ができ、自立性を養うことを目指す。</p>
<p>講評</p>	<p>本事業は、森を舞台にした障がい者の作業所と、子ども達・保護者との活動を複合的に展開する点が、先進性・創意工夫・実現性の面で高い評価となった。地域において地道に活動してきた当団体が、強みである森づくりを活かして、新しく障がい者就労支援事業に大きく舵を切るものであることから、新規チャレンジ性の面からも評価できる。</p> <p>森に設置される障がい者作業所は珍しく、本アワードの助成によって、新しいモデルとして社会に知らせると共に、本事業が継続的に発展していき、多くの障がい者達に夢と希望を提供できる場所となることを期待したい。</p>

■特定非営利活動法人 子育てサポート山の子（和歌山）／20万円

「働くお母さんのための食育勉強会」

<p>団体概要</p>	<p>ものがあふれ価値観が多様化する中で、社会の風潮に流されるのではなく、子ども達にとって本当の幸福とは何かを考え、豊かな自然の中でのびのびと育てたいと思う親が集まり1990年に設立し、2011年に法人格を取得した団体である。</p> <p>現在、通常保育のほか、一時保育や短時間保育、親子揃って受け入れる体験保育、小学校の長期休暇中の学童の受け入れなどの乳幼児・学童への保育事業、子育てに関する講演会や相談会・園庭開放などによる地域の子育て家族を応援する子育て支援事業に取り組んでいる。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、小さな子どもの食事に悩む母親に対して、年2回の食育勉強会を開催するものである。「時短レシピ」「家事の段取り」など、かゆいところに手が届く知恵と、ついイラッとしてしまう子どもの食事の悩みを和らげる知恵を学びながら、改めて「生きる力を育てる食」の大切さを見直すことを目的にしている。</p> <p>子育て中の母親の悩みで一番多いのは「食」で、その悩みは「良い食事を整えてやれない」「子どもが食べない」の二つに大きく分けられる。保育事業において、長年子どもの食に関する悩みに応えてきた当団体の実績を活かした勉強会を行うことで、保護者のストレスを軽減し、不安を解消する。</p>
<p>講評</p>	<p>本事業は、保育事業で培った経験を発揮した働く母親に向けた食育の勉強会であり、その社会性と実現性を評価した。また、レシピや工夫を講師から学ぶだけでなく、アンケートや参加者意見により二回目は調理実習を組み込むなどの検討もなされており、新規チャレンジ性としても評価できる。</p> <p>手法としてはオーソドックスで、この課題は働く母親だけが担うものではないため、父親へのアプローチ方法も考えて欲しいが、本アワードの助成によって実施がなされることで、次の活動に結び付くことを期待したい。また、同様の課題に関心を持つ地域団体・個人との活動のリンクや、幅広いネットワークの構築も望みたい。</p>

■子育て支援グループ「スマイル」(兵庫) / 20万円

「子育て中のお母さんたちと考える“災害時にあわてないマニュアルづくり”」

<p>団体概要</p>	<p>宝塚がより子育てしやすい街になるように願って、1998年に出張一時保育から活動を始め、2001年に活動拠点「スマイルルーム」を設けた団体である。</p> <p>活動の中心は、積み重ねた実績を活かした親子の居場所づくりであり、地域との接点が少なく一日のほとんどを一对一で過ごす子育て中の親子が、実家のようにいつでも立ち寄れるほっとできる場所を提供している。さらに、虐待未然防止も含めて、子育て中の親子の仲間づくり活動、親のためのリフレッシュ講座、育児の悩み相談、親子クッキングなどのイベント企画実施といった、支援活動を行っている。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、乳幼児を持つ子育て中の親同士が、防災について自ら考えて学び、マニュアルを作成するものである。日常生活の中、自宅で育児中や、親子での外出中に、突然、自然災害が起こり、遭遇した時の心構えや対応の仕方を考え、講師を呼んだ勉強会によって学び、自分達への生活の実践に備える一連の事業である。</p> <p>日々、育児に追われ、自然災害への不安は感じつつも、テレビやネットからの情報を主体として動いている子育て中の親に対して、周りの人や地域の人達と接点を持ち、自分にあった災害マニュアルを考えておき、日頃から災害に対する危機意識を持ってもらうことを目的としている。</p>
<p>講評</p>	<p>これまで親子の居場所づくりを展開してきた当団体が実施する、親自身が主体となる防災事業であり、実現性と新規チャレンジ性が高く評価された。さらに、20年前の阪神・淡路大震災を実体験したかつての子育て世代から、経験談を聞き、いろいろな知恵を今の子育て世代が学ぶことは、地域性を加味した創意工夫もある。</p> <p>防災への意識は高まっているが、ネットの知識だけで実体験の場は少ない現代において、地域での繋がりや再構築も含めて重要な事業だと言える。本アワードの助成を契機にして、防災だけに留まらない、周囲の人たちとのコミュニケーションが築かれ、それを広めることにより、日常の子育て環境の向上にもつなげて欲しい。</p>

■特定非営利活動法人 MAMIE（大阪）／20万円

『あなたの理解がみんなを守る』

聴覚障がい者の災害時に困ることって？のパラパラ漫画の動画制作」

<p>団体概要</p>	<p>2004年より「障がい児の学ぶ場を」「聴導犬を広めよう」をスローガンに、小さな「できた！」を見つけるための、障がい児向けのパソコン教室、イベント開催、HP制作、情報紙の発行などの活動を行い、2007年に法人格を取得した団体である。最終的には、障がい者が自ら責任を持って自立できるような環境を作ることを目指している。</p> <p>現在では、淀川区内の様々な情報を集約し全国の障がい者に情報提供したり、厚生労働省などの補助犬イベントの活動への参加や、講演活動などを実施している。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、聴覚障がい者が災害に遭った時に、どんなことに困るか、自分に何かお手伝いできるか、支援マニュアルとして、パラパラ漫画の動画を作るものである。</p> <p>内容は「聴覚障がいとはどんな障がいなのか？」「聴覚障がい者の種類」「聴覚障がい者が困ること」「困ったときの対策方法」「災害の支援方法」「手話ができなくてもコミュニケーションが取れること」などを、わかりやすくパラパラ漫画の動画にして伝える。また、ユーチューブにアップして、インターネット上で公開したり、社協と協力して淀川区内の小学生に紹介したりすることで、障がい者の課題を淀川区から全国に発信していく。</p>
<p>講評</p>	<p>災害時における障がい者の支援マニュアルをパラパラ漫画の動画といった手法で伝える本事業は、先進性と社会性が高いプログラムである。さらに、子どもに焦点を絞って、文章よりもわかりやすいイラスト・マンガで理解を広げようとしていること、ゆくゆくは音声解説・英語字幕も入れてバリアフリー動画を標榜している点で創意工夫も評価した。</p> <p>当団体は聴覚障がいだけでなく、災害時におけるあらゆる障がい者の困ることをシリーズ化して、パラパラ漫画の動画にして社会に広めることを展望しており、本事業を通して活動が広がり、発展することを期待して本アワードの助成としたい。</p>